



【学校教育目標】

ふるさととつながり、仲間とともに

“在りたい未来”を創造する広谷っ子の育成

あたたかい応援、ありがとうございました ～運動会開催～

- さわやかな秋の日に、広谷小学校運動会を開催することができました。多く方にご来場をいただき、会場は大変にぎわいました。PTAの皆様には、学校にあるテントをすべて設置していただき、素晴らしい会場づくりにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。
- 子どもたちは、一度きりの本番に向けて、これまで積み重ねてきた努力と成長のすべてを注ぎ、全力で臨みました。残暑の厳しい中での練習では、汗を流しながら「だんだんできるようになる」よろこびを味わい、一つひとつ挑戦を重ねてきました。それでもやはり、運動会当日は特別なもの。応援を受けて輝く子どもたちの表情から、その思いが伝わってきました。
- たくさんの拍手や手拍子、あたたかな声援、見守るまなざし——。最高の環境の中で、子どもたちは本気を出さずにはいられませんでした。大勢に見守られ、認めていただける場が、子どもたちをさらに大きく成長させてくれることを改めて実感しました。
- 子どもたちにとっても、私たち教員にとっても、かけがえのない幸せな時間でした。ご来場いただいた皆様にも、少しでもその幸せを感じていただければうれしく思います。多数のご来場とあたたかい応援に、改めて感謝申し上げます。今回の経験を今後の成長につなげながら、2学期の教育活動を進めてまいります。



最強 PLAYERS (低学年表現)

“かっこかわいい”という言葉の意味がよくわかりました。こんなに素敵な表情で踊るのですね。小さなダンサーひとりひとりから「ぼくを見て」「わたしを見て」という気持ちがあふれていました。「学校ってホントに楽しいところだよ」というよろこびを体いっばいで伝えてくれました



広谷よっちょれ 2025 (中学年表現)



元気いっばいの中学年のためにあるような“よっちょれ”でした。3年4年のそれぞれの学年の良さが引き出され、混ざり合った演技は“躍動”という言葉がぴったりでした。時々入る合いの手のかけ声が中学年らしさを引き立てます。会場いっばいに元気を与えてくれました。

Our LastFlag Plan ～Watch me!～ (高学年表現)

高学年になると、一致団結して美しさを表現することができるのですね。フラッグの先まで伸ばしたり、視線を外さなかったり。美しく表現するために、ひとりひとりが役割をしっかりと果たします。この美しさはひとりでは表現できないものでした。仲間を意識し、息を合わせるからこそできるようになったことです。5・6年生で創り上げた最高の作品でした。



■ 開催後の保護者アンケートについて

運動会での子どもたちの様子については「がんばって練習したんだなぁと思ったのと同時に、成長したなぁ…と、感動しました」「ここまで練習を頑張ったぞという自信に満ち溢れた演技に感動しました。」等のご意見をいただき、概ね満足していただけたことがわかりました。特に今年の運動会では「他の学年の演技に、みんなが大きな声で声援送っているのがとっても良かったと思います」等、応援席での子どもたちの態度を評価していただいた意見も多かったです。運営等で改善を要する点として、以下のようなご意見をいただいています。

- ・ 2学年での表現種目としたことにともない、優先席からの観覧が見にくくなったこと
- ・ 個人テント設置について、時間、場所等のルール周知を徹底すること
- ・ さらに盛り上げるためのプログラム編成について

賜ったご意見を吟味しながら、行事の改善に役立てていきます。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

講演会「今すぐ実践できる！子育て世代のパパママの処方箋」より(2) (※前号の続きです)

講師：青少年養育支援センター陽氣会代表理事 杉江 健二 氏（養父市 PTCA 地域フォーラムにて）

2 子どもを上手くほめるコツについて

① 養育の理想と現実

- ・ ほめる：しかるの比率は、理想としては7：3の割合。しかし現実には4：6の割合になっている（花王の調査より）。
- ・ ポジティブな言葉とネガティブな言葉をどのくらいの割合で使えば関係性がこわれなにかについて数値化した「ゴットマン率」によれば、子育ての黄金比率は3：1であると言われる。

② 適応行動をほめる

- ・ 子どもの「適応行動（問題がなく普段どおりの状態・行動）」について、親は適応行動をスルーしてしまう傾向がある。適応行動をスルーせずにはめることが大事。

③ 「オットセイ理論」を使ってみましょう

- ・ 適応行動をほめるコツとして「オットセイ理論」を提唱する。オットセイ理論とは『おおっ！』という賞賛の感嘆詞と『その行動の描写』を組み合わせた言葉かけのこと。

「おおっ！起きてきたな。」 「おおっ！おはよう。」 「おおっ！おかえり。」

「おおっ！歯をみがいてるな。」 「おおっ！宿題やってるな。」

- ・ 正しいこと（正論）を言えば、子どもが良くなるとは限らない。「何（内容）を伝えるか」も大事だが、ふだん、子どもとの間でどのような関係性ができてるのは、さらに重要なことである。

3年前に母を亡くして以来、我が家は妻と私の2人暮らしでした。ところが先日、25歳になる娘が帰ってきて、3人での生活になりました。娘が帰ってきてからというもの、家の雰囲気が一気に明るくなりました。もちろん、妻との2人の暮らしも穏やかで心地よいのですが、やはり娘が家にいるのといないのとでは大きな違いがあります。

ふと「あとどれくらい娘と同じ場所で時間を過ごせるのかな」と思うことがあります。いつまでも子どもは子どもですが、いっしょに暮らせる時間となると、それは思っている以上に短いものだなと思うのです。娘が小学生だった頃には思いもしなかったことでした。子どもといっしょに過ごす時間が、親としていかにかけがえのない時間であるのか、改めて実感しています。娘は年が明ければ、またこの家を離れる予定になっています。思いがけずおとずれた“娘といっしょに過ごす時間”を、今、大切に味わっているところです。

どうぞ保護者の皆様も、日々のあわただしさの中にある「子どもと過ごすかけがえのない時間」を大切にいただければと思います。